

宮城山岳通信第12号

目次

巻頭言	富塚和衛・・・ 1～2 頁
定例役員会報告	事務局・・・ 2～4 頁
宮城支部山行報告	
☆冬山山行（大東岳）（共益事業山行）	中條俊一・・・ 4～6 頁
☆厳冬期山行（南面白山）（共益事業山行）	今野俊一・・・ 5 頁
☆早春山行（あけら山、青麻山）（共益事業山行）	千石信夫・・・ 5～6 頁
山行以外の宮城支部行事開催報告	
☆仙台市マチノワブース出展	富塚眞味子・・・ 6～7 頁
宮城支部以外の日本山岳会関係行事参加報告	
☆該当なし	
平成 30 年 4 月～平成 30 年 7 月の行事予定	事務局・・・ 7 頁
編集後記	遠藤銀朗・・・ 8 頁

巻頭言（春を探して）

支部長 富塚和衛

冬季スポーツの祭典、平昌オリンピックとパラリンピックが終了した。テレビに釘付けになって日本人アスリートの活躍を観戦していた会員も多かったのではないだろうか。特に、フィギアスケート羽生結弦選手の 66 年ぶりのオリンピック連覇の偉業や、カーリング娘のオリンピック史上初のメダル獲得、そして「そだねー」、「もぐもぐタイム」も話題となった。また、パラリンピックでは、日本選手団の旗手を務めた岡村桃花選手が座位女子アルペンスキー回転系で、何と、出場した 5 種目の全てでメダルを獲得するという快挙を成しい遂げた。更には、スピードスケートの小平菜緒選手や高木姉妹の活躍など、我々に感動と夢と希望を与えてくれた印象に残る平昌大会だったのではないだろうか。

一方、国内に目を転じれば、森友学園との土地取引をめぐる財務省の公文書書き換え（改ざん）問題が、連日のようにマスコミを賑わしている。忖度があったのかどうか知り得ないが、行政府が、然も、財務省と言う官僚機構の頭脳集団が公文書を書き換えすると言う前代未聞の不祥事は、民主主義の根幹を揺るがす問題でもあり、国の沽券にかけても真相解明をして欲しいものだ。

人間社会の動きとは関わりなく、自然は時を重ね季節が巡る。そんな3月のある日、春を探して、仙台市の南部に座す火山岩頸が今に留める太白山(321m)に登ってみることにした。

仙台市自然観察センターの駐車場から標識に従って遊歩道を登り、中腹の小出森八幡神社で一休みして頂上へ。快晴の頂上からは梢越しに、雪を被る泉ヶ岳、大東岳、雁戸山、蔵王連峰等が見渡せる。山頂の梢の蕾は、未だ、冬眠からは覚めやらぬ様子で、硬くしぼんだままだ。

岩に腰を降り、チョコレートを頬張っていると、男性が一人登って来た。名取市のゆりが丘に住むと言うこの方、一昨年の4月から始めた太白山登山がこれまでに何と370回を越えたという。1日に2回登る日もあるとも。その結果、腰部の脊柱管狭窄症の治療をしていた痛みが消え、体重も15キロ減ったと、嬉しそうに笑顔で話しながら名刺をくださった。その名刺には東北地区ボウリング連合会長山下哲郎と記してあり、御年80歳の山下さんは、当支部鳥山文蔵会員とは大学の同窓で旧知の仲とも話されていた。冷たい北風が吹く中、将に、健康登山を楽しむ山下さんの清々しい立ち居振る舞いは、一瞬、春のそよ風を感じさせてくれるひと時だった。

登って来た遊歩道を下って行くと、道端の陽だまりに野草が小さな白い花をつけていた。良く見ると、春一番に咲く「セリバオウレン」の花だった。太白の地にも確実に春は訪れているようで、山笑う時節ももうすぐだ。

定例役員会議事録

☆平成30年1月定例役員会議事録

日時：1月17日(水)18:30~20:30

場所：仙台市シルバーセンター5F会議室

出席者：冨塚(和)支部長、遠藤副支部長
佐藤(昭)、三宅、草野、柴崎、木
皿、冨塚(真)、鈴木、松田

計10名

①12月初冬山行結果

②1月冬山山行計画

(3) 他委員会からの報告

①晩餐会&オークション開催結果

②創立60周年記念事業特別委員会審議

結果報告

《報告事項》

(1) 総務・財務委員会からの報告

①平成29年度支部連絡会議報告

②山岳関係機関からの情報受理状況

・登山計画書の提出とそのチェック体制

③2021年「山の日」記念事業に関して

④マチノワブース出展

⑤蔵王の山岳トイレ設置に関する要望書

(2) 山行集会委員会からの報告

《審議事項》

(1) 創立60周年記念事業計画に関する提案について

・提案3件のうち、国外(玉山)登山計画、祝賀会開催については承認されるも、国内登山計画については不承認となった。

(2) 登山計画書とチェック体制について

・登山が制約されることが懸念されることから、次回役員会で再度審議すること

とした。

(3) 平成 30 年度事業計画書、予算書について

- ・本部提出について了承された。

(4) 支部友会会員入会について

- ・承認された。

《その他》

- ・特になし

(事務局報告)

☆平成 30 年 2 月定例役員会議事録

日 時 : 2 月 22 日 (木) 18:30~20:10

場 所 : 仙台市シルバーセンター 5F 会議室

出席者 : 遠藤副支部長、佐藤 (昭)、草野、柴崎、千石、鈴木 (晃)、千葉、中條、三宅、松田

計 10 名

《報告事項》

(1) 富塚支部長が入院中のために、副支部長の遠藤が議長を代行することが報告され、了承された。

(2) 総務・財務委員会からの報告

①山岳関係機関からの受理状況

- ・平成 30 年度本部催事日程
- ・本部からの平成 29 年度支部事業報告・会計報告書の提出依頼
- ・第 34 回支部懇談会開催案内

②仙台市マチノワブース出展について

(3) 山行集会委員会からの報告

①1 月冬山山行結果について

②2 月厳冬期山行結果について

(4) 会報編集出版委員会からの報告

①宮城山岳通信第 12 号の発行について

②宮城山岳第 22 号の編集・発行の方針について

(5) 第 4 回支部創立 60 周年記念事業特別委員会審議結果の報告

①1 月定例役員会において反対意見のあった国内記念登山 (大雪山系「朝日

岳」登山) の中止と、60 周年記念登山は海外記念登山のみとすることについて報告がなされ、役員会として了承した。

(6) 全国自然保護集会の開催について

①2018 年度の全国自然保護集会在、2018 年 7 月 8 日および 9 日の両日に石川県の「白山」において開催される。

《審議事項》

(1) 2021 年度「山の日」記念事業の受け入れについて

・1 月定例役員会において説明がなされた 2021 年度「山の日」記念事業を宮城県において開催する計画について、日本山岳会宮城支部として開催計画を受け入れかどうかを審議し、本部からの本要請を承諾することを役員会として了承した。今後は、この支部役員会審議結果を本部に通知し、本件に関する本部からの指示を待つこととした。

(2) 登山計画のチェック体制について

・本部より指示があった各支部における登山計画書の提出とそのチェック体制の構築について審議し、宮城支部としては指導・遭難対策委員会をもって登山計画書の受理・チェック機関に充てることに決した。
・上記決定に伴い、指導・遭難対策委員会の所掌業務が増えることから、今後の役員会において当該委員会委員長の再選任および委員の増員について検討することとした。

《その他》

①蔵王山火山活動資料 (仙台管区気象台発表) について

②入・退会届け出について

(事務局報告)

☆平成 30 年 3 月定例役員会議事録

日 時 : 3 月 21 日 (水) 18:30~20:30

場 所：仙台市SPAセンター 5F 会議室
出席者：冨塚（和）支部長、遠藤副支部長
佐藤（昭）、草野、柴崎、冨塚（真）、
三宅、松田

計 8 名

《報告事項》

(1) 総務・財務委員会からの報告

①山岳関係機関からの受理状況

- ・120周年記念事業アンケート
- ・個人情報保護法
- ・平成30年度「特別事業補助金」募集

②マチノワース出展結果

(2) 山行集会委員会からの報告

①3月早春山行計画

(3) 会報編集出版委員会からの報告

①宮城山岳第22号発行内容

《審議事項》

(1) 平成30年度総会資料について

- ・平成29年度事業報告(総括表)、平成30年度事業計画(総括表)、平成29年度収支決算書、平成30年度収支予

算書について、説明し了承された。

(2) 指導・遭難対策委員長について

- ・高橋二義委員を委員長に選任、委員を1名追加することで承認された。

(3) 日本山岳会宮城支部登山計画書に関する運用指針について

- ・運用指針を運用基準とし、3.山行区分に本部規定を準用し適用除外を追加規定することで承認された。

《その他》

①入・退会届け出について

②第34回全国支部懇談会参加者について

③創立60周年記念玉山登山参加者について

④宮城県知事への「山の日」記念事業立候補働きかけ依頼について

⑤中華民国山岳協会黄理事長からの歓迎メールについて

(事務局報告)

宮城支部山行報告

☆冬山山行（大東岳）

(共益事業山行)

- ・実施日：平成30年1月21日(日)
- ・山 域：二口山塊の最高峰・大東岳（仙台市太白区）
- ・コース：秋保ビジターセンター・本小屋登山口→裏コースを500m入る→表コースと裏コースの間の尾根筋→標高点標識1027(実際の標高1019m)昼食→立石岩を觀賞→表コース・立石沢～小行沢→本小屋登山口

・参加者：

(会員) 佐藤昭次郎、千葉正道、今野俊一、中條俊一 (計4名)

・報告者：中條俊一

ようやく東の空があかるくなり始めた、朝7時、参加者4名全員が予定どおり集合。ただちに支度に取りかかり出発、大東岳裏コース（大行沢コース）に向かう。秋保ビジターセンターにてトイレを済ませる。前方左にピラミダルな三方倉山が白く美しい。本小屋から300mほど進んで右に入る。これより表コースと裏コースの間の尾根筋に入る為だ。さて、ここから地図表記472m

地点を目指してラッセル開始、トップはこのルート指定した佐藤昭次郎会員が速いピッチでサクサク進む。足元はつぼ足、雪はここ数年では深いほうだと感じるがソコソコ締っている。全員元気だ。

472m地点を越え地図表記 782m地点まではつぼ足で通す。ここで今日最初の長めの休憩、かんじきを履く。振り返ると神室岳がその名のおり白く輝き神々しい。全員元気で登高再開。しばらくはなだらかな斜面も、ほどなく北に向かい傾斜がきつくなる。先ほどの神室岳が時間経過とともにハイライト部分とやや陰った部分とに分かれてきていて、山容がはっきりしてきた。急斜面を登りきると 1019 ピーク標識の頭部が見えた、と同時にぐるりと視界が開けた。11 時 20 分到着。早めの昼食とする。このあとよもやま話……。12 時 30 分、「せめて『鼻こすり』まで行こう」との佐藤昭次郎会員の檄を抑えてもらいつつ下山開始。同会員の提案もあり、途中立石沢の立石を觀賞し記念撮影。そこからは表コース下る。そこでも今年は積雪量が多く感じられる。また、雪が降り出した。本小屋着 14 時 40 分、午後のあまりおそくない時間に、その日の山行は終わった。やはり雪山はいい、全身にほどよい疲労感がある。お互い、なにがしかの達成感につつまれて分かれる。

いかにもさわやかで、いい気持ちであった。

☆厳冬期山行（南面白山）

（共益事業山行）

- ・実施日：平成 30 年 2 月 11 日（日）
- ・山 域：南面白山（仙台市青葉区）
- ・コース：JR 面白山高原駅→旧面白山スキー場上部→南面白山（1225m）→旧面白山スキー場上部→JR 面白山高原駅

- ・参加者：
（会員）今野俊一、中條俊一、松田照夫、
草野洋一、宇都宮昭義（計 5 名）
- ・報告者：今野俊一（遠藤銀朗報告代行）

7:07 に JR 仙山線列車にて仙台駅を出発。
8:07 に JR 面白山高原駅到着。その後装備を整えて登山を開始。旧面白山スキー場上部より、わかんを装着してラッセルをしながら積雪登山路を南面白山（1225m）を目指す。途中で単独冬山山行をしている若者に出逢う。

南面白山山頂にて早めの昼食をすませ、登りと同コースを JR 面白山高原駅まで無事下山。

帰路の JR 列車内で単独冬山山行をしていた若者と情報交換を行い、日本山岳会と宮城支部の活動についても紹介した。

☆早春山行（あけら山、青麻山）

（共益事業山行）

- ・実施日：平成 30 年 3 月 25 日（日）
- ・山域：あけら山（810m）青麻山（799m）
（蔵王町）
- ・コース：集合場所～移動～下別当登山口
（林道から）→青麻山→あけら山
→同ルート下山
- ・参加者（申込み順）：
（会員）冨塚和衛、冨塚真味子、佐藤昭次郎、三宅 泰、草野洋一、山田ふき子、川名久子 1 2. 千石信夫
（会友）村上敏郎、針生紀子、白田昭一、
蔭山美緒子
（計 12 名）
- ・報告者：千石 信夫

午前 8:30 に、定刻通り蔵王町ふるさと文化会館前駐車場に全員集合。天候は曇りで小雨がちらついていたが天気予報では曇り

のち晴れ、心配ないようだ。

担当千石よりコース概要説明の後、富塚支部長より挨拶の中で、今年は支部創立 60 周年となり大きな行事があるので皆様参加協力していただきたいとの話があった。特に台湾の玉山記念登山については人数に余裕がるとのことであった。

集合場所に余分な車を置いて 3 台に分乗し登山口に向かう。蔵王町宮の上黄金田地区を西に行くと広域農道コスモスライン十字路に着く、直進し林道登山口に向かう。十字路には青麻山遊歩道の道標がある。そのまま道なりに進んで間もなく登山口の林道に到着。

本日の参加者は、今年初めての山という人もおられたこともあり、少しスローペースを心がけて登ることにした。登山口からはしばらく広い道となる、道端にはアズマイチゲの花が見受けられた、山菜はまだまだでフキノトウぐらいだった。カタクリの濃い緑の葉がたくさん見受けられたので群生しているのだろう。沢沿いから尾根に取りつくと、急勾配の登りが続く、この辺からは雲もなくなり見晴らしがよくなってき

た。頂上近くには残雪が少しあり早春の景色で気持ちがいい。間もなく山頂に到着、山頂からの見晴らしは春霞のなか岩沼角田方面が綺麗に見えていた。蔵王方面は雲に隠れてまったく見えなかった。小休止後、あけら山に向かう標高差は約 80m ぐらい下って登ることになる、大変そうに見えるが時間的には片道 20 分前後で到着することができた。景色はよくないが山頂には碑がふたつあって、向かって右に「あけら山」と、左に「蔵王山」（詳しく読めないが）と書いてある。記念写真を撮り、青麻山に引き返して昼食。山頂でゆっくりしてから下山。急勾配の下りには苦労しながらも全員無事下山した。

下山後にふるさと文化会館に戻る途中、車窓から雪を頂く雁戸山などがとても美しく見えていたのが印象的であった。

参考タイム

林道登山口 8 : 50 青麻山 10 : 30 あけら山 10 : 50 青麻山 11 : 40 登山口 13 : 10

山行以外の宮城支部行事開催報告

☆仙台市マチノワブース出展

報告者
女性懇談会委員 富塚真味子

2月24日に開催されたマチノワブースに初めて参加、出展しました。

マチノワブース？って、何だろうと馴染みのない響きである。主催は仙台市市民活動サポートセンター(略してサポセン)で、今年で2回目となる。マチノワとは、暮らしの中でお互いに理解し合える「人」と「人」、

「人」と「街」の緩やかな繋がりを意味する造語だそうです。この開催の趣旨は、様々な活動を行っている団体の活動内容を聞いたり、雑貨を購入したり、ワークショップに参加したり、体験したりして交流することにより、市民活動やボランティア活動を理解する場として考えられたそうです。

山岳会のブースは、24日1日でしたが、場所取りではクジ引きで1番をゲットし、与えられたスペース(長机1つ、1m四方のホワイトボード)に、「山の日」のパンフレットや宮城山岳通信、JAC旗を配置し、動画もお見せしました。

市民をはじめ、親子連れ、県外、市外からもブースを訪れてくれ、質問や疑問に答える等、双方向の有意義なデスカッションが出来ました。特に、親子連れは興味を示し「山に登ってみたいと思っていた」と言う声も聴かれ、これをキッカケに山に親しんでもらえれば嬉しいし、あまり、馴染みのない「山の日」や「登山」の事を少しでも理解して頂く機会になったマチノワブ

ース出展でした。

仙台市長も会場を訪れ、全ブースを回られていました。日本山岳会宮城支部のブースに立ち寄られた際には、遠藤副支部長から「山の日」記念事業の県内実施についてのお話をさせて戴きました。

また、機会があれば、他団体や市民との交流の輪を広げていければと感じた次第です。

宮城支部以外の日本山岳会関係行事参加報告

今号では宮城支部以外の日本山岳会関係行事等への参加報告はありません。

日本山岳会宮城支部の平成30年4月～平成30年7月の行事予定

- ◎平成30年4月
 - ☆4月9日(月)
「宮城山岳通信」第12号発行
 - ☆4月中旬
山の日記念事業立候補依頼(県庁)
 - ☆4月21日(土)
創立60周年記念玉山登山打合会(仙台シルバーセンター)
 - ☆4月28日(土)
平成30年度総会(太白山生出森八幡神社境内)
- ◎平成30年5月
 - ☆5月16日(水)
定例役員会(仙台シルバーセンター)
 - ☆5月20日(日)
第5回登山教室(場所未定)
- ◎平成30年6月
 - ☆6月上旬
「宮城山岳」第22号発行
 - ☆6月14日(木)
定例役員会(仙台シルバーセンター)
 - ☆6月17日(日)
岩手・宮城内陸地震10周年栗駒山メモリアル合同登山(兼、露払い山行)
 - ☆6月23日(土)
平成30年度通常総会(本部)
- ◎平成30年7月
 - ☆7月上旬
「宮城山岳通信」第13号発行
 - ☆7月8日(日)
第5回親子登山教室(場所未定)
 - ☆7月11日(水)
定例役員会(仙台シルバーセンター)
 - ☆7月21日(土)～22日(日)
全国支部懇談会(大雪山)
 - ☆7月29日(日)
ビールパーティー(JALシティー仙台)
(事務局担当)

編集後記

平成 29 年度より編集内容と発行方法を変更した「宮城山岳通信」を、3 ヶ月に 1 回定期的に宮城支部関係者の皆さんにお届けすることができほつとしています。これにより、この 1 年間の支部活動内容をタイムリーにかつ詳細に知っていただく宮城支部のニュースレターの役目を果たすことができたのであればうれしく思います。また、日本山岳会本部および他支部にも「宮城山岳通信」をお送りしておりますので、全国的にも宮城支部の活動を知っていただく広報誌としての役目も果たすことができたのではと思っております。

会報編集出版委員会では、平成 30 年度もニュースレターとして「宮城山岳通信」を 3 ヶ月毎に定期的に発行することにしております。また、これに加えて平成 26 年度以降休刊となっておりました支部会誌の「宮城山岳」を本年度から復刊することにしております。これらの会報の発行は、宮城支部関係者の皆さんのご協力とご支援がなければとうてい実現できません。引き続き、宮城支部の会報出版に対する皆さんの大きなご支援を宜しくお願いいたします。

会報編集出版委員長 遠藤銀朗

宮城山岳通信

発行 公益社団法人日本山岳会 宮城支部

発行日 2018 年 4 月 12 日、 発行人 富塚和衛

編集出版委員 遠藤銀朗、千石信夫、富塚和衛、中條俊一、細川光一、三宅 泰

事務局 983-0821 仙台市宮城野区岩切畑中 9-12 Tel・Fax 022-255-7398